

新型コロナウイルスの影響か？乗船希望者増！

乗組員の皆様、連日にわたる操業、大変ご苦勞様です。宮城県北部船主協会（以下船主協会）は鯉鮪漁船に乗船を希望する若者を全国から集め、皆様の船へご紹介させていただいております。

新型コロナウイルス（以下新型コロナ）の影響で様々な問題が浮き彫りとなり、インドネシア船員の配乗ができずマグロ漁船の運航そのものに影響を及ぼしたのは記憶に新しいところ。出港はしたものの外地での乗組員交代や補給など今後の心配事は多いと思います。

取りざたされるのは悪い影響ばかりですが、反対に良い影響はないのでしょうか？暗い影にばかり目を向けてしまいがちですが、影が暗いほど反対側には煌々と光があたっているのかもしれない。

船主協会ではブログ『漁船員になろう！』を運営しており、そのブログを見たという全国の若者からお問い合わせをいただいておりますが、ここにきて問合せ件数が増えているのです。多い日、少ない日はありますが緊急事態宣言発令中は毎日のように問合せがあり、その中から5名の新人乗組員を確保することができました。

現在でも問い合わせ件数は多いのですが、単純にお金欲しいという理由だけで覚悟も何もなく安易に足を踏み入れようとする人が少なくないのも現実です。前職も様々で、建築・土木関係が多いのですが、中には「元力士」なんて人もいました。

受け付ける私達も本気を見極める目が必要になるので、真剣に対応し、本気度が低い人はお断りする方向で対応しています。各船に紹介しているのは3人中1人くらいでしょうか。

新型コロナの影響による雇用不安で、自分の生き方を見つめなおし、仕事はただ単にお金を稼ぐものではなく、やりがいを求めて、自分は何者として生きたいのか改めて考え直すよい切っ掛けとして考えているようです。「やりがい」を感じる瞬間は個々で違いますが、「やりがい」とは皆さんが新人船員の成長を認めてあげるところから生まれるような気がします。

「叱る」ときはその場で行うことが大切で、時間が経ってから叱ってはまったくの逆効果、ただし、「認める」「褒める」というのは時間が経ってからでも十分な効果があるので、落ち着いた時や思い出した時でかまいませんから、通路などのすれ違いざまにでも「〇〇の部分、だいぶ上手くなったな」等と言ってあげて欲しいものです。

新人乗組員に2年間書かせている洋上日誌にも成長を認められ「嬉しかった」とする記述がたくさんあります。逆に褒められると怠けてしまうタイプもあるので一概には言えませんが、「嬉しい」という気持ちは変わらないと思います。

「コロナ禍だからこそ」と、この事態を前向きに捉えられる若者の姿があります。震災以降だけでも数百人の若者と会話をし、会ってきましたが、センスの良い若者は出会ってすぐに分かり洋上に送っても1~2ヶ月で高い評価を得ています。しかし、その数は全体からみるとごく一部で、そのような若者しか受け入れないとするならば、減り続ける船員数を補うことは絶対にできません。

圧倒的に多いのは、時間をかけてじっくりと育てていく必要があると思われるタイプです。長時間にわたる肉体労働、日本人乗組員の不足、それが乗組員の高齢化と重なり、じっくり指導する時間的余裕がないのも分かりますが、励ましの言葉だけでも意識的にかける気持ちを持っていただきたいものです。

新人乗組員の中には、インドネシア船員に仕事を教わる時に、分からない部分を上手く言葉にできずストレスに感じている人も多く、日本人船員に教わると「言葉が伝わる喜びを感じる」と日誌に書いてきます。

日本人乗組員の意識が少しでも変わることで、大きな変化を生むことが出来ると信じています。

どうか、新人乗組員をよろしく願いいたします。

新人乗組員受入れ状況（令和2年9月末現在）

令和2年度（令和2年4月～）状況

（受入数・内定含）	遠洋まぐろ延縄漁船	8名
	近海まぐろ延縄漁船	1名
	遠洋かつお一本釣り漁船	5名
（乗船検討中）	遠洋まぐろ延縄漁船	7名

航海の安全と大漁をお祈りいたします！

ある新人乗組員の洋上日誌

遠洋まぐろ延縄漁船（乗船1年目・18歳）

【第1週目】
待ちに待った出港だ。
仕事が覚えられるか不安だがそれ以上に楽しみである。

【第2週目】
投縄と揚縄の流れが分かってきて、揚縄が楽しみになってきた日に、出港して以来初めての大きな時化が来て最高の揚縄になった。
ブラン練習をかなりしたが、全然追いつけず悔しい。

【第3週目】
最初の揚縄に比べるとだいぶブラン巻きに追いつけるようになってきた。仕事の流れや優先順位等も少しわかってきて、ただ見るだけだったのに参加できるようになったのは自分なりに成長したのだと感じた。
道具の名前や場所なども覚えてきた。

【第4週目】
いまだに船酔をしていないのが奇跡に感じる。様々な魚の処理の仕方が分かり、自分ひとりでもできるようになった。少し急いでいて派手に滑り、インドネシア船員にスライディングをしてしまった。結構痛かった。別の日もみんなの前できれいに滑り笑われたのはかなり恥ずかしい。足元にも気をつけようと思った。

【第5週目】
今の領海で扱っている魚はまだきれいではないし、サポートをしてもらっているが、だいたい一人でさばけるようになった。

【第6週目】
まだまだ自分の事で手一杯で、周りが見れていないので、もっと余裕をもって仕事ができるように日々精進である。

【第7週目】
だいぶ流れをつかめてきたが、まだ細かいところが出来ていないので、少しでも早くサポートなしの戦力になりたい。

【第8週目】
初めてのレッド投げ、船長から思うように1回やってみてと言われ、今まで見てきた通り見よう見まねで投げたところ、講習終わるかと言われたときは驚いたが、その後いろいろな話を聞いて、注意点やコツについて知ることが出来た。実践する日が楽しみだ。

【第9週目】
もうすぐマグロが始まる。他の船員の話ではかなり忙しいと聞いたが、自分はかなり楽しみだ。早く始まって欲しい。

【第10週目】
時化が多く、かなり忙しいが、初めて見る大きなマグロを獲ると楽しくて揚縄が早く感じる。

【第11週目】
1日の揚がるマグロの本数が増えた。モツレや魚が多く、疲れが取れなくなっているが、やはり大きな魚を獲る喜びが強く楽しくて仕方がない。

◇ 応援しています ◇

各船の皆様、毎日お疲れさまです！出船おくりでお見送りさせていただいた皆さんには本当に格好いいのひと言ですし、心から誇りに思っております。私たちは微力ながら遠洋漁業を応援いたしたく、漁師カレンダーや出船送りを通して、気仙沼のスーパーヒーローである漁師さんを国内外に発信しております。陸では想像できないほど沖の生活は大変だと思いがすが、今後5年、10年、20年とこれまで先人が培った技術や知恵を、次の世代の若人に引き継がれることを心から願っております。島国日本、漁業は絶対大切な産業です。がんばっぺ東北！がんばっぺ日本！

一般社団法人 歓迎プロデュース
鶴亀の湯、鶴亀食堂

9月は労働安全衛生月間

- 安全は小さな努力の積み重ね
皆で目指そうゼロ災害 下木原隆広
- 今日も無事故の船内に
ひろがる笑顔とチームの輪 村岡 孝司
- もしもで見抜く予知の目が
早めに摘みとる危険の芽 村岡孝司
- 君を待つ家族の願いは無事故と健康 南 和男
- 気づいてますか 仲間のストレス
目配り気配り思いやり みんなで守る船内環境
榊 康平

編集後記

洋上からのご意見・ご要望をお待ちしております！
育成情報交流紙「スナップ」では、より充実した紙面となるよう、現場を担う乗組員の皆様から、洋上で育成する上での意見・ご要望とにも、新人乗組員の近況なども募集致しますので、会社を通じまして宮城県北部船主協会までお知らせください。

新型コロナウイルスのパンデミック宣言から半年が経過しました。自粛による経済への悪影響は如実に表れ、いわゆる「コロナ解雇」は5万人を超えたと報告されました▼このころにもありましたが、船員等への乗船希望者が増えているのが現状です。コロナ禍を避けることが出来ない状態であれば、この現状を前向きに捉えたい、やる気のある若者を獲得するチャンスだと思っています。

宮城県北部船主協会
事務局 吉田鶴男